



森元 清蔵 議員
(清流会・かさいを育む会)

新加西病院の早期建設を



問 耐震結果に基づく病院の建て替えの必要性について。

答 昭和 49 年竣工の本館は 56 年施行の新耐震基準を満たしていません。平成 28 年の耐震診断では耐震指標が 0.228 で、0.3 を下回る場合は震度 6 強の地震に対して倒壊または崩壊する危険性が高い建物とされ、さらに病院は 0.75 以上の強度が求められています。構造上耐震工事は難しく経費も非常にかかるため、できるだけ早期の建て替えを考えています。

問 市民の要望を踏まえ、どのような病院を目指すのか。

答 夜間や休日の救急、幅広い医療の提供、大きな病院へのスムーズな紹介等が要望の大半を占めています。急性期医療の維持や現診療科の継続、基幹病院や周辺開業医とのさらなる連携等、地域多機能型病院を目指します。

問 基本構想・基本計画検討委員会の中で、総事業費が約 130 億円と出ている。市長は現地で建て替え反対の理由として「70 億が 138 億になった時点で誰が考えても成り立つものではない」と発言された。事業費が増えてきている状況についてのお考えは。

答 (市長) 建設費の増は反対理由の一つですが、それ以前に現地での建て替えは医療経営の常識から無理と考えます。

問 メディカルタウン構想の具体的な内容は。

答 (市長) 病院を建設するだけでは広がりがないため、病院にない診療科の開業医に来ていただきたいという思いから、構想として発表しています。一番の希望は産婦人科の開業です。実現不可能かもしれませんが、打ち出さなければ可能性はゼロです。

問 新病院の診療科目と医師数、及び医師確保について。

答 外来は現行の 17 診療科を維持しますが、入院は産科、泌尿器科、精神科などは将来の医師確保が担保されないことから、対応できない見通しです。新病院開院時の常勤医は 21 名(現在 26 名)程度で、計算上の基準常勤医師数はクリアしていますが、医師確保は大変厳しい状況です。引き続き神戸大学や北播磨総合医療センター等に医師派遣を依頼し、実現に向け調整していきます。



北川 克則 議員
(令和新風加西)

魅力ある新病院を目指して



問 新病院基本構想の 4 つのコンセプトの 1 つ、予防医療の充実について、方向性や内容など特にアピールできるところは。

答 予防医療の充実の内容としては、健診や人間ドックの機能を充実させ、病気の早期発見、早期治療につなげるとともに、加西病院医療スタッフが積極的に地域に赴き、健康講座や啓蒙活動を行っていくことにより、普段から健康に気をつける体づくり、予防医療の啓蒙を行っていきと考えています。新たな取組として、物忘れ外来や認知症に特化した脳

ドックについても検討したいと考えています。

問 続いて、コンセプトの大きな柱の 1 つ、在宅医療の充実について、方向性と内容は。

答 高齢化の進展により、在宅医療の充実は欠かせないものと考えます。加西病院では退院支援はもとより、24 時間体制での訪問看護を強化することにより、常に加西病院と患者がつながりを持ち、何かあればすぐバックアップできる安心感を市民に提供していただけるような体制としたいと考えます。また、市内で在宅診療を展開されている診療所等の数では今後医療の提供が不足すること考えられますので、その対策が必要と考えています。

問 オンラインを活用した診療や指導の展望は。

答 県の協力を得て、令和 6 年 2 月には加西病院でもオンライン診療の試験実施をしました。当然コスト面や体制整備に対する課題もありますが、今後、人口減や高齢社会の進む地域医療としては、医療 DX の力を借りながら、患者や家族に寄り添った医療を提供できるよう、医師会等とも連携しながら検討していくべきものと考えています。

要望 大学や民間と連携できる先進的なプロジェクトを模索してほしい。また、新病院の基本構想は理想を高く掲げて、地域、患者、働く者にとって魅力的な病院にしたい。

■その他の質問項目

- ・ 医師確保について
- ・ 北条高校活性化について
- ・ 加西の教育について